

平成 27 年度長崎大学がんプロ養成基盤推進プラン在宅・地域医療実習

実習生：今村 一步

実習先：谷川放射線科胃腸科医院

実習期間：平成 27 年 5 月 26 日（火）～ 12 月 1 日（火）

実習生感想：

私はこのたびの在宅実習で、谷川放射線科胃腸科医院にてお世話になりました。5月から12月という長期にわたりお世話になり、こちらの都合でいろいろと実習の日程も対応していただきご迷惑もたくさんおかけしました。誠にありがとうございました。

毎週火曜日午後に、谷川放射線科胃腸科医院 光田様に運転いただき、濱田教授と共にさまざまな在宅の患者様の診察に同行させていただきました。実際に同行してみて思ったのは、改めて長崎の地理的特性（坂）、および多岐にわたる在宅医療での対象疾患に驚きました。私は消化器外科医であり、これまでの在宅医療とのかかわりについては、がん患者様が緩和医療の段階になった時点で自宅まで往診をしていただける在宅医へ紹介するところまでのかかわりのみであったため、その後の患者様の生活や医療スタッフとの関わりについては知るところではありませんでした。そのため、同行することにより今まで自分が携わってきた分野の疾患のみならず、内科的疾患（特に神経疾患）や通院困難患者様など多岐に渡る患者様と関わることができました。私の実習期間が長期にわたったことにより、期間をあげながら患者様に携わることができたことで、短期間では見落とししてしまいそうな症状・体調の変化に気づくことができ、その点については在宅医療においてもその都度の丁寧な問診・診察、そして自宅で診察させていただくうえでの信頼関係が非常に重要であると感じました。また、通院するにあたり、長崎の地理的特徴、すなわち非常に急峻な坂の上にお住まいの場合には通院が非常に困難なものとなっているのだなと強く感じました。ご高齢の方をはじめ、特に神経疾患を患われている患者様にはその環境が通院の妨げとなることから、在宅医療の果たす役割は大きく、他の地域にはない長崎ならではの特徴のひとつかと思いました。



往診中



今回の実習を通して、在宅の先生に紹介をするというところまでしか携わっていなかった在宅医療の、核となる場面に携わることで、患者様と関わる在宅医およびスタッフの方々、また患者様を介護するご家族様と関わりをもてたことや、生活背景・環境といった在宅医療において重要となってくる場面を知ることができました。今後の臨床において、在宅医療が必要とされる患者様に選択肢の一つとして提示する際に今回の経験を生かすことができればと思います。

最後になりますが、改めまして実習を受け入れてくださいました谷川先生、ご同行させていただきました濱田教授、日程調整など大変お世話になりました光田様はじめ谷川放射線科胃腸科医院のスタッフの方々、そして、このような機会を与えてくださいましたがんプロ養成基盤推進プランの皆様方に御礼申し上げます。



実習報告会にて